

提案の方向性

北陸においては、新幹線開業による高速鉄道網の整備と北陸本線を動脈とする地域公共交通の整備の両立は、地域活性化と住民生活の充実にとってかかせないものである。しかし、新幹線整備にともなって生じるとされる、並行在来線に関わる問題が、北陸においても同様に発生する可能性があり、その問題に対して、県域を越えて議論・検討を行う必要がある。

私たちは、並行在来線の経営分離は北陸本線をどのように活かすチャンスなのかを、住民・利用者の視点で徹底的に考える必要がある。そのために、市民活動を通して、住民にとって便利で使いやすい鉄道の姿や交通体系を多くの市民にわかりやすく示していきたい。そして、各市民団体が出前講座を行うなど、市民レベルでの盛り上げを図りたいと考えている。

以下の点について議論・検討を行う

並行在来線の位置づけ

LRTがまちづくりの装置であれば、並行在来線は、地域づくりの装置ではないのか。

並行在来線を活かした地域づくり

新駅の設置、駅舎への公共施設の併設、駅周辺の土地利用規制の緩和、商業施設や病院等の誘致等により、並行在来線を活かした地域づくりができないのか。車依存型のライフスタイルを変えられないのか。

運行形態

快速電車の運行や枝線への乗り入れ、等間隔ダイヤの編成などについて検討する。

既存の特急列車の取り扱い

新幹線の開業に伴い、既存の特急をどうすればよいのか。サンダーバード、しらさぎ、北越等の取り扱いをどうすべきなのか。

ソフトな利用促進策

北陸地域で利用可能なICカードの導入、企画切符の販売、アテンダントの乗車等について見当する。

他の公共交通機関との連携

LRT、コミュニティバスとの連携、公共交通ネットワークの再構築等について検討する。

経営形態

上下分離経営、上下一体経営、県別経営、北陸の広域的経営、運輸連合的経営等について検討する。

費用の負担

JR資産の買取費用は、誰が負担すべきなのか。運賃で回収できるのか、税金で賄うのか、税金で賄うとすれば、財源をどうするのか

既存の私鉄と競合・調整

北陸本線滑川 黒部間など既存私鉄との競合問題をどうするのか。

その他

貨物の経営問題、枝線の扱い